

横浜都市発展記念館

平成26年度事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

都市発展記念館では、昨年度に引き続き近現代歴史資料課が運営する都発・開港・市史の3施設連携事業を積極的に展開しました。それぞれの施設の展示に特色を持たせた結果、相乗効果が生まれ入館者の増加につながりました。現在も3施設は共同して調査・研究を進めており、その成果は今後も各施設で紹介していきます。

特別展「あこがれの『団地』」は、総入館者数が9,000人を超え、目標を大幅に上回りました。また、アンケートの回収率が非常に高い上で満足度もたいへん高い結果となりました。

このほか、吉田新田解説小学校団体見学の受け入れも順調に増加し、116校、10,140人がありました。さらにユ一文と共同して夏祭りなどのイベントも開催し、この結果、常設展入館者数(41,861人)、企画展入館者数(18,104人)に達しました。

1 資料収集保管事業(定款第4条第1項第1号①)

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

(1) 資料収集

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈31件 11,906点 寄託0件 0点	主な収集資料：五十嵐英壽氏撮影写真、長谷川弘和氏鉄道関係資料、公田町団地入居説明会資料
資料の購入	88件 126点	主な収集資料：飛鳥田一雄回想録、写真「横浜正金銀行本店」、Dependents Housing in Japan and Korea、夢の国ドリームランド、翼賛常会必携、モトマチアン、徴兵検査の心得概要、自動車競走双六ほか
資料修繕	0件	主な修繕資料：なし
資料の複製収集	1件 74点	主な複製資料：神奈川県警察本部所蔵資料
資料のデジタル化	21点	主な資料：団地展関係地図資料
複製資料の提供	46件 101点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ所蔵資料を画像で提供した。
資料の貸出	2件 20点	他の博物館施設での展覧会に当館所蔵資料を貸し出した。

(2) 資料収集実績(H25.4~H26.3)

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	1 (0)	0 (0)	179 (1)	0 (0)	180 (1)	1,538 (1,358)

図書	77 (39)	0 (0)	11 (1)	0 (0)	88 (40)	2,168 (2,080)
新聞雑誌	12 (12)	74 (0)	68 (119)	0 (0)	154 (131)	2,110 (1,956)
文書	2 (31)	0 (0)	6 (0)	0 (0)	8 (31)	3,381 (3,373)
紙票類	28 (10)	0 (0)	2544 (33)	0 (0)	2572 (43)	4,744 (2,172)
写真	1 (1)	0 (0)	9097 (406)	0 (0)	9098 (407)	16,413 (7,315)
絵葉書	0 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (6)	2,418 (2,418)
地図	5 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (17)	676 (671)
図面	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	938 (938)
絵画	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)
映像	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	54 (54)
録音資料	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)	171 (171)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (21)
合計	126 (116)	74 (0)	11,906 (560)	0 (0)	12,106 (676)	34,634 (22,528)

※（ ）内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	大型資料については「ふくろう君」(文化財用炭酸ガス)による資料の燻蒸を実施した。また、小型、少量の資料については、脱酸素剤を用いた無酸素法により適宜資料の殺虫処理をおこなった。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保管資料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫 (200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型家具 (昭和初期の置時計・大テーブル他)などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また、**開港資料館・市史資料室との連携研究事業を進めました。**

(1) 基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜市域の近代遺跡と出土遺物に関する調査研究（4／5年次）	本年度は資料データベースに記載する遺跡名称および入力情報の見直しと統一とおこない、未整理の遺物について水洗・注記作業を進めた。また北仲通の煉瓦造遺構などあらたに発見された遺構の整備にともない、出土遺物を採集した。
館蔵総合文書目録の作成に関する調査研究（3／3年次）	資料群ごとに原資料にあたって仮目録との照合作業をおこない、目録発行の準備を整えた。また、本調査研究の過程で整理した資料の一部を次年度特別展「時計屋さんの昭和日記」で公開する。
地図データベース作成に関する調査研究（3／4年次）	当館および開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。今年度も、前年度から継続して、所蔵地図資料の選別とデータベース登録作業を進めた。
横浜・東京の都市生活史に関する調査研究（2／3年次）	横浜の時計店主がつけた昭和5年から平成期に至る日記を新たに発見して借用・調査分析をおこない、戦中・戦後期の横浜の都市生活の具体的な様相を明らかにした。さらに、本日記を中心的に利用して2015年度特別展「時計屋さんの昭和日記」の準備をおこなった。本研究の成果は、今年度は月イチ講座で報告し、次年度は上記特別展・図録及び特別展関連連続講座で公開する。

(2) 戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して実施した。今年度は複数のグループに分かれて9回の定例会を開催した。うち1回は外部講師を招いての報告会（鈴木伸治氏「都市計画史から見た六大事業」）。また、公田町団地（栄区）住民への資料調査（座談会の実施）、神奈川県警察本部所蔵資料の複写など、基礎となる作業を行った。

(3) 資料の調査整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理・目録作成	調査研究で収集した資料・データなどの整理・目録作成を行った。 主な整理資料：長谷川弘和氏鉄道関係資料（うち昭和30、40年代の横浜市電を中心とした横浜周辺の鉄道写真）

(4) 研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市発展記念館 紀要 第11号	1,000部	<ul style="list-style-type: none"> ・高度成長期から現在における南関東地方の市区町村別人口増加率の推移―「首都圏」の形成と変容、および横浜市域の位置付けについて― ・広瀬始親撮影写真にみる初期公営住宅の暮らし―昭和30年頃の県営藤棚アパートを事例として― ・昭和30、40年代の横浜市電を中心とした横浜周辺の鉄道写真目録―長谷川弘和氏鉄道関係資料より―

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。

（1）常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員研修や小学校団体見学向けに、夏期以降、コーナー「吉田新田その後」を常設的に設置した。 ・ 博物館実習の一環として、実習生による収蔵資料紹介コーナー「横浜名所一昭和初期の姿一」を一定期間設置した。
コーナー展の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築家J.H.モーガンと昭和の横浜 2/15（土）～5/11（日） ・ 横浜市電コレクション（その1） 5/13（火）～7/25（金） ・ 横浜市電コレクション（その2） 7/26（土）～10/3（金） ・ ハマに鉄道が走った日 10/4（土）～1/30（金）

（2）常設展示観覧者の推移（目標数30,000人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
26年度	969	562	1,531	40,330	41,861	105.4%	307日	136
25年度	871	536	1,407	38,281	39,688	119.8%	306日	129
24年度	1,169	981	2,150	30,985	33,135	106.9%	307日	107

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。

昨年度に引き続き、小学校団体の受け入れや市民ボランティアの活用、ユーラシア文化館や開港資料館・市史資料室との連携、外部機関との協力に力を入れることで、幅広い事業展開を実現しました。

（1）企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
特別展「港をめぐる二都物語 江戸東京と横浜」 H26.1.25(土)～4.13(日) (68日)	一般 300円 小・中 150円	26年度分 852人 会期総数 9,908人 (目標数 5,600人)	<p>本展では、港をめぐる江戸・東京と横浜の動きを横浜開港（1859年）から東京開港（1941年）までたどりながら、ふたつの港の歴史的風景を紹介した（開港資料館と共催）。都市横浜と東京との関係を考える初の展覧会であり、東京のメディアでも紹介され、東京方面から多くの観覧者を集めた。</p> <p>【関連事業】 ①展示担当による展示解説 4/5（土）31人</p>

			<p>②写真パネル展「高度成長期 横浜の港」 ～4/13（日） 会場：1階ギャラリー</p> <p>③中野武正氏写真展「記憶の残像Ⅱ 横浜逍遙」 ～4/20（日） 会場：旧第一玄関</p>
<p>企画展 五十嵐英壽^{えいじゅ}写真展 「写真記者」が見つめた港の半世紀 H26. 7. 19(土) ～9. 23(火・祝) 会期5 7日</p>	<p>一般 300円 小・中 150円</p>	<p>7,992人 (目標数 5,700人) 1日あたり140人</p>	<p>「写真記者」五十嵐英壽氏が長年撮り続けてきた横浜関係写真の寄贈を記念して、写真展のかたちで広く写真を公開した。昭和27年から平成元年までの写真を中心に、時代背景を知るための関連資料（文書・地図など）もあわせて展示しながら、大栈橋の接收解除に始まりみなとみらい21地区の誕生にいたる、港を中心とした横浜の戦後史を紹介した。</p> <p>【関連事業】</p> <p>①展示図録の編集・発行 定価：750円（税抜）、売上：215冊</p> <p>②五十嵐英壽トークイベント 7/26（土）、参加者32人</p> <p>③展示担当による展示解説 8/31（日）18人、9/14（日）23人</p> <p>④写真撮影ワークショップ 「五十嵐さんの足跡をたどるヨコハマ撮影会」 (企画協力：Marble Workshop) 8/3（日）、8/22（金）参加者9人</p> <p>⑤関連写真展 「出会いの栈橋、別れの栈橋」会場：1階ギャラリー 「ハマねこ」会場：旧第一玄関</p> <p>⑥関連ワークショップ 「牛乳パックで作ろう！スクリー船！」 「船のペーパークラフトに挑戦」 「国際信号旗でメッセージをつくろう！」</p>
<p>特別展 「あこがれの『団地』」 H26. 10. 11(土)～ 1. 12(日) 会期7 5日</p>	<p>一般 300円 小・中 150円</p>	<p>9,253人 (目標数 7,500人) 1日あたり123人</p>	<p>日本の高度経済成長を象徴する東京オリンピックからちょうど半世紀となるのを機会に開催。当時、横浜市内には多数の住宅団地が建設され、都市の姿と市民の生活は大きく変化していった。この特別展では、「団地」をテーマにして、高度成長を迎えた都市横浜のあゆみをふりかえった。</p> <p>【関連事業】</p> <p>①展示図録の編集・発行 定価：800円（税抜）、売上：448部</p> <p>②展示担当による展示解説</p>

			<p>10/19（日）15人、11/16（日）21人、 12/14（日）15人、1/11（日）49人</p> <p>②連続講座「高度成長を迎えた都市横浜」 11/22（土）13人、12/6（土）11人</p> <p>③ミニ劇場「昭和の団地スケッチ～横浜編」 出演：ミュージアム・シアター・ワークショップ 11/23（日・祝）、12/7（日）各2回 参加者55人（11/23）、55人（12/7）</p> <p>④写真パネル展「洋光台43年の今昔物語」 協力：「ルネッサンスin洋光台」今昔フォトコンテスト実行委員会、UR都市機構、他 会場：1階ギャラリーおよび旧第一玄関 会期：10/25（土）～11/21（金）、12/13（土）～1/12（月・祝）</p>
次年度企画展準備			<p>特別展「時計屋さんの昭和日記」の準備のため、市民の所蔵する昭和期の日記の分析を進めた。</p> <p>次年度の財団全施設連携展示の分会場として、開港資料館との共同展示を設定し、市史資料室の協力も得ながら、陸上交通をテーマとした展示内容の検討をおこなった。</p>



五十嵐英壽氏トークイベント



ミニ劇場「昭和の団地スケッチ」

(2) 企画展示室観覧者の推移（目標数13,200人）

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均 入館者(人)
26年度	4,373	13,731	18,104	84.7%	144	125
25年度	5,589	15,768	21,357	151.3%	143	149
24年度	4,450	9,665	14,115	89.2%	112	126

(3) 講座・講演会・歴史散歩など普及事業

事業名称	参加者数	事業内容
「ミュージアム・クイズラリー よこはま2014」への参加 H26.7.19(土)～8.31(日)	331人 (当館のみ)	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を中心に関内・山手地区の博物館施設15館でクイズラリーを実施した(県立歴史博物館主催)。
夏祭りの開催 H26.8.16(土)・17(日)	4,087人	ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。 ワークショップ「アニメで作る横浜港」、「蒸気船をつくろう」、「国際信号旗」、缶バッジ制作、中庭ゲル、馬頭琴コンサート、大道芸、アイスクリーム販売など 活動支援ボランティアによる支援(のべ40人)
「子どもアドベンチャー2014」への参加 H26.8.19(火)・20(水)	15人	市教育委員会が主催する子ども向け夏休み企画「子どもアドベンチャー2014」に参加。市内小中学生を対象に「一日まるごと博物館」と題して、展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーを実施した。
横浜都ユ大道芸の開催 4/13.5/11.6/8.7/13.9/14. 10/12.11/9.12/14.1/11.2/8	861人	月1回第2日曜日に、中庭・旧第一玄関を利用して大道芸を開催。大道芸にあわせて旧第一玄関の大棧橋通り側の扉を開放し、歩行者の誘導を試みた。
月イチ講座の開催	133人	1階ギャラリーを活用した月1回の定例の講座を、ユーラシア文化館と共同で開催した。 第1回「建築家たちの昭和 ジェイ・ハーバート・モーガン」(4/19、21人) 第2回「館蔵資料から探る昭和の横浜ー昭和20年代編ー」(5/24、20人) 第3回「『市電』の誕生とその黄金時代」(6/14、20人) 第7回「戦後混乱期の横浜の暮らし」(1/24、18人) 第8回「山下公園をめぐるハマの昭和史」(2/14、29人) 第9回「横浜市電・最盛期とその限界」(3/21、25人)
開館祭の開催 H27.3.14(土)・15(日)	4,616人	ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。 旧横浜市外電話局建物見学ツアー(3回、各15名)、特別展展示案内、缶バッジ制作、中庭ゲル、馬頭琴コンサート、大道芸など 活動支援ボランティアによる支援(のべ26名)



横浜都ユ大道芸



旧横浜市外電話局・建物ツアー

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、職員による解説とミニ体験のメニューを実施。116校、10,140人の小学校4年生の団体入館があった。(前年度104校、9,161人)
教員向け研修の実施	財団エドゥケーターと内容を検討し、小学校4年生向けのメニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施した(参加者60人)。
学芸員実習の受け入れ	3名の学生を受け入れた。実習生を主体としてミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。
中学生職場体験の受け入れ	2校計4名の中学生職場体験を受け入れ、ブログを使った広報、煉瓦の拓本採取などの作業を実施した。



市職員・教員向け研修



博物館実習生による実習展示

(6) 近現代歴史資料課での施設間連携の強化

項 目	事 業 内 容
連携企画展の実施	特別展「あこがれの団地」は、開港資料館・市史資料室との連携研究会での調査研究の成果を公表する形で開催した。また次年度の財団全施設連携展示の分会場として、開港資料館との共同展示を設定し、市史資料室の協力も得ながら、陸上交通をテーマとした展示内容の検討をおこなった。
地図データベース作成に関する調査研究	当館及び開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。三施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースをまず作成し、次に各施設で所蔵する地図資料を順次調査してデータベースの拡充を進めた。
共同資料調査	開港資料館、市史資料室との連携研究会で実施する資料収集・調査事業として、栄区公田町団地内住民への資料調査、神奈川県警察本部所蔵資料の調査などを実施した。

(7) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第22、23号（各10,000部）
優待カードの発行	年間パス「EAハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じた記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じた広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「横浜絵葉書データベース」等収蔵資料の画像公開
メールニュース配信	希望者に対してメールニュースの配信を実施した。当館の催し物について担当者がわかりやすく記事を執筆し、情報の羅列ではなく、読みでのある内容とした。 配信数 42号～46号+号外2回 計8回
ブログでの情報発信	催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真付きでタイムリーにブログで発信した。 記事総数 19件（前年度18件）
インターネットによる新着情報発信	ホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物等の紹介を行った。 アクセス件数 73,900件（前年度72,924件） * Total Unique IPsの数値。ページビューは457,914件

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
都市発展記念館	施設の維持管理 ・主な修繕：2F, 4F常設展示室空調機修繕。地下機械室収蔵庫送風排気ファン修繕。

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、地図・絵葉書・メモ帳・DVD・クリアファイルなどを販売した。完売になっていた図録『横浜にチンチン電車が走った時代』を増補改定版として発行・販売した。

② 委託商品の販売

各企画展やフランス月間などのイベントに合わせ、商品のラインナップを大幅に変えることで、売れ筋の商品を陳列した。

（2）自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

(1) ミュージアムショップ売上の推移

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館 (千円)	6, 240	6, 055	6, 560

(2) 自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、各館に自動販売機を設置しました。

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館 (千円)	100	106	77

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	企画展「五十嵐英壽写真展」に出品した写真を含め、五十嵐氏の撮影した写真の寄贈を受け入れたほか、長谷川弘和氏の収集した鉄道関係資料などの寄贈を受けた。本年度の収集資料点数は購入・複製を含め1万2千点に達した。	A
調査研究事業	調査研究事業としては開港・市史と共同で地図データベースを作成したほか、3施設共同で戦中・戦後期の都市横浜に関する研究を展開し、大きな成果を得た。	A
常設展事業	常設展示室内にコーナー展示を設け、新収資料を展示したほか、話題性の高い資料を公開し、目標の140%の入館者となった。	S
企画普及事業	企画展は「五十嵐英壽写真展」と「あこがれの団地展」を開催した。企画展入館者は目標値を大きく上回ったが、有料入館者は昨年度を下回った。	A
情報事業	ホームページ、メールニュース、ブログなどの運営は当初の計画通り順調に実施した。	B
施設維持事業	施設の老朽化にともない、近年、いくつかの不具合が発生しているが、緊急の修繕などを実施している。	B
収益事業	ユー文とともにミュージアムショップを運営し、ほぼ前年並みの売り上げをあげた。	B